

令和5年度 春日南中学校『「居場所づくり」と「絆づくり」の一体的な充実をめざす学校づくり

○「居場所づくり」と「絆づくり」について

「居場所づくり」とは、生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を作り出すことを指している。教職員が生徒のために「場づくり」を進めることであり、生徒はそれを享受する存在である。「絆づくり」とは、主体的に取り組む協働的な活動を通して、生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくことを指している。「絆づくり」を進めるのは生徒自身であり、教職員に求められるのはそのための「場づくり」である。教師主導のエクササイズやトレーニングを繰り返すだけでは「絆づくり」にはならない。まずは教職員が「絆づくり」を「してあげる」「させる」という発想を捨てるべきである。教職員が主導で行う「居場所づくり」と生徒が主体となる「絆づくり」の違いは、「つくる」の「主語」が、生徒なのか、教職員なのかにある。教職員主導で進める「絆づくり」は、単なる「やらせ」でしかない。（国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」より）

○春日南中学校が目指す発達支持的生徒指導

生徒にとって拠り所となる学校を創る教師の姿勢態度

★生徒に自信をもたせる姿勢態度★

- 1 7つほめて3つ叱る→みんなの前で叱ったら、必ずその中にある生徒のよさを評価する
- 2 結果でなく努力の過程をほめる→努力しながらも失敗した生徒にこそ声をかけよ
- 3 悪さの中にもよさをみつけてほめる
- 4 感情や気持ちを込めてほめる→ほめる時は何がよかったのかをしっかりと伝える（情緒表出的な指導を）
- 5 仲間をほめる生徒をほめる
- 6 目立たない生徒を取り上げてみんなの前でほめる
- 7 精一杯の失敗に対しては精一杯の励ましを→教師こそ自分の失敗を語れ

★信頼を創る姿勢態度★

- 1 どんな生徒の考え方も大切に。はみ出しを大切に→はみ出しが学級風土をつくる
- 2 生徒の身になって考える→朝の出会いは一一人一人の目を診よう
- 3 相手のよさを探す（レッテルだけは貼らない努力）
- 4 何がよかったのかを明確にしながらほめる→具体的な評価の実践
- 5 支持的風土を壊す生徒には厳しい対処を→「甘く冷たい指導」ではなく、「優しく厳しい指導」を・・・

★「朝の会」、「帰りの会」を大切に作る姿勢態度★

- 1 誰よりも早く教室へ向かう
- 2 伝達（連絡）よりも交わりを大切に→短い時間の中でキャッチボールを

★生徒を励ますための姿勢態度★

- 1 本当に努力している生徒にこそ励ましは有効である→「がんばれ」の4文字
- 2 いい加減な努力の生徒への励ましは何の力にもならない→厳しい指摘を
- 3 励ましと共に具体的なアドバイスを積極的に→ガイダンスの機能を大切に

★そして何よりも★

- 1 人権は平等である（言われなき理由で、人間としての尊敬が下げられる学級を創らない）。しかし、個性は違う（個性に差がでるのは当然）。生徒の個性を伸ばす姿勢をもつ教師に（みんな違ってみんないい）。
- 2 「ありがとう」、「ごめん」、「おいで」、「よかったね」が心から言える教師になろう。